

総合評価

受診施設名	くわの実保育園	施設種別	保育園 (旧体系：)
評価機関名	きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成31年6月17日

総 評	<p>「くわの実保育園」の現園長は、昭和59年に亀岡教職員組合婦人部(現女性部)とで『亀岡に産休明け保育所をつくる会』準備会を結成され、昭和60年4月「くわの実共同保育所」を開所されました。そして平成15年に社会福祉法人くわの実つむぎ会としての認許のもと「くわの実保育園」の開園となりました。平成30年には「はこべ保育園」も開園し、地域子育て支援拠点事業、未入园児一時保育事業も開始されています。</p> <p>当時からの園長の思いとして、子どもも親も育つ保育園を目指し、熱心な取り組みを積み重ね、今は卒園児のOBの方々が結成する「育てる会」も頼もしい応援者として、お祭りや田植え、演奏会など様々な活動の輪が広がっています。</p> <p>時代の変遷によって、子育ての変化や特に子どもの成長過程にも変化がみられる中で、社会福祉事業の保育園としての役割について、まだまだ学ばなければならない使命感も抱いておられます。</p> <p>「食」の時代変化も家庭の食事の在り方に合わせて、離乳食から普通食の移行や偏りのない食生活、また自ら意欲的に食べようとする力が養われるように子ども一人ひとりに合わせての食生活を保育過程に織り込んでおられ、保護者には試食会や給食日より「食」の大切さを伝えておられます。</p> <p>からだづくりをしっかりできる外遊びや制作に力を入れ、また感受性豊かな子どもに育つように自然の中で五感を刺激する保育を心がけておられます。</p> <p>場所は国道やJRの駅にも近く、駐車場は国道から入りやすく、地域や交通状況を考慮し、延長時間も配慮しています。</p> <p>子どもと共に親も育ち、同時に保育士の成長にも力を入れておられ、保育士が主体的に学ぼうとする場を積極的に提供されています。個別の研修計画と共に保育園内外の研修など、保育士自身が成長を実感できるように支援されているのも「くわの実保育園」の大きな特徴といえます。</p> <p>一方で歴史とともに大切に育てこられた仲間やネットワークですが、これからの発展のためにも園長や主任が細やかに保育を進められてきたこの「くわの実保育園」の特徴や良さをきちんと後輩に伝えられるよう、文書化して残すことも大切です。</p> <p>近年、保育に関わる制度の変化が著しい中で、子どもの豊かな生活や子育てができる保育環境であることで、選ばれる保育園となることと願っております。</p>
-----	--

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>I-4-(1) ①保育の質に向けた取り組みが組織的に行われ、機能している。 保育計画の振り返りを年3回行っています。実施にあたっては、事前に担任へアンケートを行い、それを元に話し合いが行われています。また、週2回行われるクラス会議や乳児・幼児の各部会、またクラス責任者会議においても常に保育内容に関する話し合いが行われています。</p> <p>Ⅲ-1-(1) ①子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。 入職時に必ず読む本があり、職員皆が同じ視点が持てるように指導されています。また、「園だより」に「園長のつぶやき」というコーナーを設け、保護者へ子どもの人権を考える視点などを伝えておられます。</p> <p>A-1-(1) ①保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育過程を編成している。 保育理念に基づいた保育過程は作成されています。保護者の京都市内の通勤状況なども考慮して編成されています。年3回は年間計画に沿って振り返りの会議が行われています。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>Ⅱ-2-(1) ②総合的な人事管理が行われている。 「自ら学ぶ人になってほしい」をはじめとして、期待する職員像について、しっかりとした方針を持っています。一方で、その方針と現実との差を確認しあう機会や評価に該当するものがなく、今後の課題とされています。</p> <p>A-1-(2) ⑧障害のある子どもが安心して生活でき、喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。 支援の必要な子どもに対しては専門機関との連携を図りながら、個別のかかわりを丁寧に行われていますが、具体的な支援計画が策定できていないことも自覚されています。</p> <p>A-1-(3) ③アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。 「アレルギー対応マニュアル」を作成し、医師の診断のもとに対応されています。また誤食を起こさないように、給食職員及び担当保育士は、献立表と共に指差し確認と声を出しての確認を行い未然に防ぐように取り組んでおられますが、緊急手順のマニュアルが作成されておりませんでした。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	くわの実保育園
施設種別	保育所
評価機関名	きょうと福祉ネットワーク一期一会
訪問調査日	2019/3/20

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	頁番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	a
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	a
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	a
[自由記述欄]						
I-1-(1)	①理念・基本方針に該当するものが事業計画の中で示され、職員会議では振り返りから計画案の議論を行い、保育園総会ではわかりやすい資料を配布して説明している。					
I-2-(1)	①保育所を取り巻く動向について、理事会において情報共有している。地域ニーズを踏まえ、2つ目の保育園を開設、運営している。管理職で構成する『基幹会議』でコスト分析等を行っている。 ②経営課題について、理事会側からも管理職に対して問題提起がなされ協議が深められているとともに、職員会議等において周知、共有している。					
I-3-(1)	①法人として地域の保育ニーズを踏まえた中長期計画に基づき、新たに2つ目の保育園を設置した。次の計画づくりに向けて、理事長・主任のアイデアを形にし、法人内での議論をしていく段階である。 ②中長期計画作成の端境期であり、単年度の内容に反映されていない。					
I-3-(2)	①年度末に全職員会議を開催し、事業計画の振り返り作業を行っている。また、月に一度行われる正規職員による会議の中で、実施状況の把握や見直しなどが行っている。 ②年度当初の『保育園総会』において、説明を行っている。その際、理解しやすいよう図表化した資料を配布している。					
I-4-(1)	①保育計画の振り返りを年3回行っている。実施にあたっては、事前に担任へアンケートを行い、それを元に話し合いが行われている。また、週2回行われるクラス会議や乳児・幼児の各部会、またクラス責任者会議においても常に保育内容に関する話し合いが行われている。 ②改善点を明文化し全員で共有している。また、毎月の全正規職員会議でも検討されている。					

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	b
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	b
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行わ	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a	
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	b
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	b
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	a
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	b	b
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b

[自由記述欄]

II-1-(1)	①運営規程や職務分掌を通じて表明しており、同時に積極的に職員に関わる機会を持つことで理解を図っていた。ただし、有事の際の施設長不在時における権限委任等が明文化されていない。 ②園長は法令に関する研修等へ参加している。一方で、職員に対して法例遵守に関する研修等の取り組みが行われていない。
II-1-(2)	①園長と主任はすべての職員会議に出席し参加し、現状確認やアドバイスをしている。また、全職員に対して年2回の個別面談を行い、相談に乗ったり、アドバイスするなどしている。 ②園長、正副主任による『基幹会議』を月に1度の頻度で開催し、経営面、業務面での課題の把握と対応策の検討が行われている。正規職員の退職者数が15年間で5人で定着している。
II-2-(1)	①理念や事業計画から人材育成に対する考え方が確認できた。また、年2回実施する全職員に対する個別面談の際に、各個人の研修計画を話し合いで決めている。 ②「自ら学ぶ人になってほしい」をはじめとして、期待する職員像について、しっかりとした方針を持っていることが確認できた。一方で、その方針と現実との差を確認しあう機会や評価に該当するものがなく、今後の課題としている。
II-2-(2)	①タイムカードが導入され、残業は園長への申請、許可制を徹底しており、状況把握にも積極的である。職員ヒアリングからも上司から何かと声をかけてもらい、安心して相談できると確認できた。
II-2-(3)	①年2回の面談で悩みを聞くとともに、研修計画もその場で話し合っ決めていく。 ②全国規模の研修に参加するための研修休暇が3日間保障されている。 ③個別課題に応じた研修についても職員との個別面談で話し合われている。
II-2-(4)	①実績(30年度7名)。マニュアルが作成されていた。受け入れを保育園業界の後継者育成と職員で確認しあっている。
II-3-(1)	①町内会に入会し、総会にも参加していることは確認できたが、理念等を明示、説明するまでには至っていない。園だよりを発行するも、プライベートな記事があることから、地域への配布等はできていない。 ②会計事務所にデータ入力等を委託するも、業務改善に向けたアドバイスは受けておらず、今後の課題である。
II-4-(1)	①まちづくり推進会の「芋掘り」や「亀岡まつり」などに園として参加している。地域の自治会に加入して自治会活動を行うなど、地域に溶け込んだ活動が行われている。 ②ボランティア受け入れの際の配布資料に詳しい記載があり、それをもとにオリエンテーションが行われている。
II-4-(2)	①中学生がクラブ活動として保育園の祭りにボランティアとして参加を続けている。大学生のボランティア受け入れについては大学側と連絡をとりあっている。就学時の連絡会議への出席、要保護児童のケース会議など、地域の子育てにかかわるネットワークに参画している。
II-4-(3)	①地元地域の自治会に加入して、災害時の一時避難所としての役割を担うべく話し合いが進んでいる。しかし、講演会や研修会を地域に向けて行うことはできていない。 ②地域に向けて一時保育事業や子育て相談などの発信や取り組みはしているが、民生児童委員との連携がとれていない。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a	
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	b	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a	
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a	
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	b	
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	b	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a	
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b	a	
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	b	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
			41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	b	
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a	
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	b	
[自由記述欄]						
Ⅲ-1-(1)	①入職時に必ず読む本があり、職員皆が同じ視点を持てるよう指導している。また、「園だより」に「園長のつぶやき」というコーナーを設け、保護者へ子どもの人権を考える視点などを伝えている。 ②プライバシーの保護についての研修は実施されているが、マニュアル整備が途中で止まっている。保護者に対する取組ができていない。					
Ⅲ-1-(2)	①利用希望者の予定に合わせて随時見学を受け入れ、子育ての悩みなどについても聞き取って相談に乗っている。 ②変更点や行事の際の説明は丁寧にされており、個別の対応で子どもが困らないよう配慮されている。 ③個人記録の他、必要に応じて園長が直接転園先の園長に電話するなど、個別の対応ができています。					
Ⅲ-1-(4)	①「苦情」があった場合は、個人が特定できないよう配慮したうえで結果を張り出して公表している。また、苦情として上がってこなくても、ちょっとした会話や書き込みから職員が気付くよう「気づきの報告」を作り、職員間の共有を図っている。 ②相談スペースの確保ができていない。 ③保護者からの相談や意見に対して、丁寧に対応しているが、組織的な「対応マニュアル」はない。					
Ⅲ-1-(5)	①ケガの報告、気づきの報告は、全職員が共有し、分析を行って再発防止に努めている。 ② 感染症については研修に参加し、マニュアルも作成して適切に対応されている。 ③ 安否確認のシステム導入はできていないが、職員連絡ライン、保護者会の連絡網が機能している。 ④各保育室にパニックボタンを設置し、すぐにSOSが発信できる。マニュアルもあるが警察等との連携はできていない。					
Ⅲ-2-(1)	①保育の標準的な実施方法は、保育過程において年齢別に適切に取り組まれている。 ②年3回、各クラス・グループで振り返り会議を行い、冊子にまとめて全職員で共有されている。					
Ⅲ-2-(2)	①入園時のアセスメントでは保護者のニーズの聞き取りを記入する欄がなく、保護者と園で望む子ども像の共有が図れていない。 ②年3回の振り返りを定期的に行っている。					
Ⅲ-2-(3)	①時差出勤やパート勤務等のため日々の動きについて連絡帳に記録し、出勤時に必ず目を通して仕事に入る仕組みができています。個別の指導ファイルは入園から卒園まで通して通してみることができるよう一冊に作られている。 ②子どもの個人記録が保育室の棚に置かれており、管理体制が不十分である。また、廃棄の取り決めがない。					

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-1 (1) 保育課程の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
	A-1-1 (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a
		51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a
		A-1-1 (3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b
	58		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
	59		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b	b
	A-1-1 (4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

【自由記述欄】

A-1-(1)	①保育理念に基づいた保育過程が作成されている。保護者の京都市内の通勤状況など考慮して編成されている。年3回は年間計画に沿って、振り返り会議を行っている。
A-1-(2)	①各保育室には温湿度計を設置し快適さやおもちゃの消毒などの衛生管理に努めている。床暖房や換気など子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 ②子どもが置かれている状況や個性を尊重した保育をしている。その一人ひとりの関わりの中でうまくいかなかったことも記録するとともに話し合いや職員配置を検討している。 ③発達状態に合わせて、食事や衣服の着脱、トイレなど基本的な生活習慣を身につけられるように保育を行っている。また家庭においても保護者と一緒に生活習慣を身につけるために年3回はクラス懇談会や悩み相談も含めた個別対応をしている。 ④「自分がやりたいことのできる身体づくり」を意識して、日々のあそびや創作活動・描画活動・リズム遊びなど取り入れている。 ⑤0歳児の延長保育では特に家庭との情報や保育士が変わるので保育士同士の情報共有を密にしている。 ⑥3歳児未満時は、自我の芽生えの時期であり、受容とともに駄々こね等に対しては気持ちを切り替えることを丁寧に丁寧にかかわれるよう基準以上の人員配置を行っている。 ⑦幼児になると友達や仲間とのかかわりの中で育つことの大切さを保護者向けの便りやクラス懇談会で子どもの成長を確認しあっている。各個人のノートを活用し、保護者の迷いや悩みや相談などに対応している。 ⑧支援の必要な子どもに対しては専門機関との連携を図りながら、個別のかかわりを丁寧に行っているが、具体的な支援計画が策定できていない。 ⑨長時間保育には、乳幼児別にゆくり関わられるように職員配置をしている。引き継ぎなど「今日の動き」の連絡帳にて全員の職員が情報を共有している。 ⑩「個別移行支援シート」を就学前に小学校に提出している。職員には幼保連絡会など小学校の接続について研修もしている。保護者にはクラス懇談会で不安を出し合う機会を設けている。
A-1-(3)	①子どもの体調やケガなどについて、保育日誌や「今日の動き」の連絡帳で全職員が共有しているが、健康管理マニュアルが作成できていない。 ②健康診断や歯科検診の結果を職員で回覧し保育に反映させている。保護者には個別にお知らせを渡し、家庭の生活でも気をつけてもらうように伝えている。 ③「アレルギー対応マニュアル」を作成し、医師の診断のもとに対応している。誤食を起さないように、給食職員及び担当保育士は、献立表と共に指差し確認と声を出しての確認を行い未然に防ぐように取り組んでいるが、緊急手順のマニュアルが作成されていない。
A-1-(4)	①各年齢の年間計画に「食」を位置づけて取り組んでいる。食材に触れたり興味を持って食べるようなクッキングにも取り組んでいる。料理をしない保護者も増えてきた中で、毎日献立の展示を行い、試食会も実施している。「食」に関心持ってもらえるように、設備上も給食室を園舎の真ん中で玄関に入ってすぐのところと位置付けている。 ②栄養士や調理師も子どもの喫食状況を把握して、献立や調理の工夫をしている。年長では自分の食べられるだけ自分でお皿やお椀に盛り付けている。お代わりも自由である。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	① 保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	a

[自由記述欄]

A-2-(1)	①家庭との連絡は、保育士からは連絡ノートの記入や送迎時で行い、保護者からは生活表に記入してもらっている。全体では総会やクラス懇談会で保育園の生活の様子を話し、個別には個別懇談の場を設けている。
A-2-(2)	①保護者の悩みなどは連絡ノートに書かれることが多いが、それをきっかけに個別懇談会を行っている。 ②「安全管理マニュアル」で虐待の発見について確認しあい、全職員で研修を行っている。市の支援課とも連携をしている。
A-3-(1)	①保育士一人ひとりが保育の捉え方や子どもの見方など自己評価を行い、保育の質向上を図っている。保育所全体の保育実践に向けては、自己評価を事業計画に反映させて行っている。